若し不幸にして政府の最後の決心動搖するが如きことあらむか、滿洲出兵も、上海派兵も、往年の西伯利亞出兵の覆轍を踏むことなきを保し難し、事茲に至れば、帝國の威信は全然失墜し、創業未だ半ならずして大陸より退却するの餘儀なきに至り、遂に我蹉跌たる天地に閉息して自滅の運命を俟つ外其の途なきに至らむも測るべからざるなり。故に吾人の死活問題たる滿蒙の善後策に關しては、最初の堅き決心に基き、飽まで其主張を貫徹するの覺悟を必要とす、然るに眼中政黨あつて國家なき政黨內閣又は歐米政治家の一顰一笑に喜憂する小心翼々たる政治家外交官等に向つて斯くの如き決心を期待するは全く木に緣つて魚を求むるの類と何等撰ぶ所なきを奈何せむ。想ふて茲に至れば吾々日本國民は宛然噴火山上に起臥するの感なきにあらざるなり。

吾人は空前の此一大難局に直面し徒らに袖手傍觀するに忍びず奮然蹶起し吾人と憂を共にし主義主張を同うする天下の志士と結合し協心戮力以て此難局を打開し、明治天皇の御偉業を奉承恢弘して、聖恩の萬一に酬ひ奉ると同時に大和民族の進路を開拓し國利民福の增進を圖り以て光輝ある君國の使命を全うせんこと期す。冀くば憂國の士奮つて吾人の此擧に參加せられん事を。（昭和七年五月一日）

齋藤內閣の成立に際して

陸軍大將　田中國重

吾人は今回明倫會の設立に着手し、別冊聲明書（前掲「吾人の奮然蹶起したる理由」）を起草し、之を未だ世間に發表するの機運に到着せざるに先ち、突如として犬養首相兇刃の爲め斃れて政友會內閣の崩壞を來し、後繼內閣の首相奏薦の御下問を蒙りたる西園寺公は、從來の慣例を踏襲することなく、時局の收拾に關して重臣と稱する三、四政治家及軍人の意見を徵し、熟慮の結果黨籍を有せざる齋藤實大將を後繼內閣の首相として奉答し、內閣組織の大命は同大將に降下したり。

斯くして同大將は政民兩黨の黨首及領袖を歷訪し、其同意を得て兩黨員を中樞とする內閣組織に着手し、辛うじて齋藤內閣の成立を視る至れり。

西園寺公が政民黨の黨首に大命降下を奏薦せずして政黨に籍を有せざる齋藤大將に大命降下を奏薦したるは同公が政黨政治の積弊を痛感し、政黨內閣は到底曩古の此一大國難に處するの能力なきことを自覺したるものと認定するを至當とすべし。

是れ即ち吾人の主張たる既成政黨の積弊打破に第一歩を印したるものにして、聊か慰するに足るものあるも、齋藤內閣の內容を檢討するに、政民兩黨を踏臺とせる一種の政黨聯立內閣に過ぎずして、吾人の主張とは大なる逕庭あり。

齋藤內閣の主義政綱の未だ具體的に發表を觀ざる今日に於ては、之に對する批判は暫く之を避け、其推移を靜觀せむとす。然れども內閣の基礎及閣員の人選に依つて之を觀るに、同內閣に多大の希望を繫ぎ得ざることは今